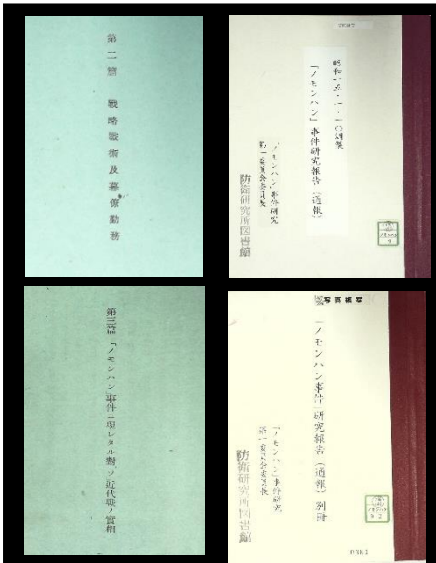
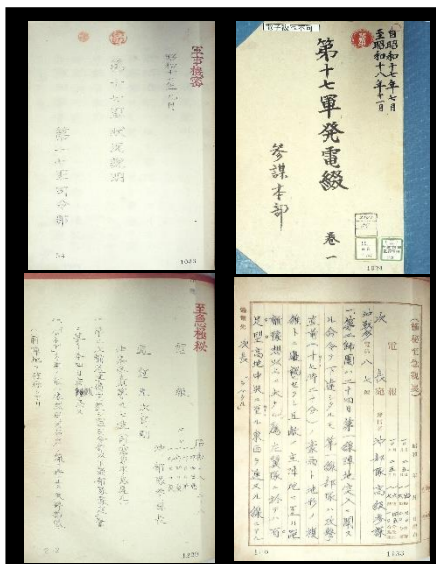


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

こめまはるお
《 小沼治夫 1899～1989 年 》
—栃木県出身の陸軍少将—



「ノモンハン」事件研究報告(通報)(登録番号:満洲ノモンハン9)
小沼治夫少将は、大正9年に陸軍士官学校(32期)、昭和6年に陸軍大学校(43期)を卒業し、7年12月参謀本部勤務以来約9年(この間、約9ヶ月北支に出征)、戦史課、戦略戦術課、大本営陸軍部研究班、陸軍大学校などで研究及び教官職を歴任しました。小沼は当初、日露戦史を統計的に研究し、攻撃成功率の低さと精神力への過信を諫めます。そして14年11月にノモンハン事件研究委員会臨時委員となった小沼は、近代戦において日本軍が多くの問題を抱えていることを指摘します。この史料は、同委員会が兵備の改善進歩を目的にまとめたもので、小沼は、第二篇「戦略戦術及幕僚勤務」を編纂しました。さらに軍隊教育に資するため、小沼は、同報告別冊第三篇(登録番号:満洲ノモンハン9-2)に「『ノモンハン』事件ニ現レタル對『ソ』近代戦ノ実相」を掲載し、将来戦に即応する教育練成を促します。



第17軍発電綴 巻一 (登録番号:中央・作戦指導重要電報-68)
戦史研究に勤しんだ小沼は、昭和17年9月第17軍高級参謀としてガダルカナル島に出征します。ここで小沼は、自らの研究において近代戦の重要な要件としていた火力と補給を欠く厳しい戦いを強いられます。この史料は、17年7月から18年11月まで第17軍が発した電報等を綴ったもので、ガダルカナル島緒戦から撤退後までの第17軍の緊迫した状況を読み取ることができます。その後小沼は、18年5月陸大兵学教官、19年8月に陸軍少将に昇任、12月第14方面軍参謀副長としてルソン島へ出征し、バンバン派遣班長などとして優れた作戦・戦術能力を発揮します。20年4月には陸大付として内地帰還、8月東部軍管区兼第12方面軍参謀副長に就任し、15日、放送会館で終戦の詔勅が録音された玉音盤の放送に立ち会いました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。
詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175(史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>